当院案内冊子、足立スタンプラリーの台紙、荒綾八十八箇所巡礼の納経などを希望の方は寺務所に申し出て下さい。

明王院だより

第７号
平成２２年７月１８日

真言宗豊山派 明王院（赤不動）
〒123-0851 足立区梅田4-15-30
TEL 03-3852-7378

真言宗二大聖地を参拝

本年四月一日から三日にかけて、近隣寺院（本木・吉祥院）と共同で、真言宗を代表する二つの聖地、長谷寺（奈良県桜井市初瀬）と高野山（和歌山県伊都郡高野町）を巡る団体参詣を行いました。

この度の参詣は、一昨年の前回同様、真言宗豊山派に属する近隣寺院と共同で、「東二荒（とうにこうりょう）綾会（かい）」という団体で実施しました。一行は総勢三十三名、このうち、当院からは先達の副住職を含め十五名が参加しました。長谷寺と高野山という真言宗を代表する二大霊場の参詣を中心として、途中通過する大和路・紀州路・伊賀路の桜をも味わおうという趣旨の二泊三日の参拝旅行でした。

一日目は長谷寺を参拝しました。本堂での法要に参列したあと、高さ一〇mの日本一の木造仏、十一面観世音菩薩にお参りし、一人ずつおみ足に直接ふれて観音様との縁をしっかりと結びました。その後、大講堂と呼ばれるお堂に移動し、「十一面観世音菩薩御影大画軸」という、長さ一六・五m、幅六mのこれも日本一の画軸を拝観しました。画軸は、お堂の内陣の空間全体に渡ってスロープ状に展示されていて、足元から頭の方向へスロープを登ることで観音様のお姿全体をくまなく拝観することができました。この画軸はもともと、室町時代に木造の十一面観音様の制作に先立ち原寸大の設計図として描かれたものだそうです。本堂で足元から仰ぎ見る観音様とは別の趣があり、観音様の原型というか心にじっくりと触れることができたような気がいたしました。

二日目は高野山に移動し、午前中は、奥の院を訪れました。奥の院は日本の総菩提所とも呼ばれ、約三十万基に及ぶ形も大きさも様々の墓碑が林立しており、織田信長や豊臣秀吉などの著名人をはじめ無数の精霊がねむっています。その厳かな雰囲気に包まれながら歩みを進め、弘法大師入定の地である、御廟（ごびょうしょ）所にお参りしました。お大師様を慕う大勢の参詣人が行き来しているにもかかわらず一種不思議な静寂さがあり、あたかも生ける大師様と一対一で向かい合っているような感じがいたしました。午後は、高野山の根本道場である七堂伽藍と、客殿や寺務所などの役割も備えた金剛峯寺をお参りしました。

三日目は、昨年平成の大修理を終えた唐招提寺と伊賀地方屈指の桜の名所、上野城を訪れ、名古屋駅より新幹線で帰路につきました。（裏面に写真）

総本山長谷寺にて

今後の主な予定

７月18日　施餓鬼会

９月20日～26日　秋のお彼岸

９月28日　護摩祈祷会
お札をご希望の方は、一週間前までをめどにお申し出下さい。

11月４日　東京文化財ウィーク
本堂にて、如意輪観音像を開帳します。
皆様の参拝をお待ちしております。

平成二十二年　年回表

一周忌	平成二十一年
三回忌	平成二十年
七回忌	平成十六年
十三回忌	平成十年
十七回忌	平成六年
二十三回忌	昭和六十三年
二十七回忌	昭和五十九年
三十三回忌	昭和五十三年
三十七回忌	昭和四十九年
四十三回忌	昭和四十二年
四十七回忌	昭和三十九年
五十回忌	昭和三十六年

みちしるべ

行者の残食（ざんじき）を喫（くら）うは、無明（むみょう）の習（じゅう）を噉尽（たんじん）するなり　（弘法大師著『不動尊功能』）

お不動様は信者の食べ残しを食べ尽くしてくれる。これは、信者を守りその修行を助けるため、われわれにこびりついてなかなか捨て去ることのできない煩悩を、代わりに滅しつくすという意味なのである。

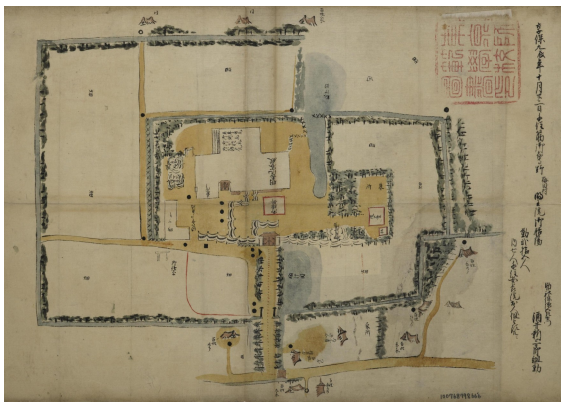
お不動様は、どこまでも自分を犠牲にして、どんな信者にも奉仕しようという誓いを立てている。だから、そのご真言を唱えてひたむきに信仰する者のためには、進んで力添えしてくださるのである。しかも何らの見返りを求めることなく、食べ残しのお供えで十分だというのである。

不動尊の御宝号
「南無大聖不動明王」
（当院本堂）

享保年間の境内地図

江戸時代中期、享保九年（一七三三）に描かれた当院境内の地図が筑波大学図書館に所蔵されていることが最近になって判明しました。同図書館ではインターネットで所蔵の古文書や古地図類を公開しており、この地図もネットを通じて閲覧できます。

この地図は「千住筋御鷹野梅田村明王院御膳場」という題名がついており、将軍の鷹狩の際の御膳場（食事の場所）として当院が使われるのに先立って、いわばＶＩＰ警護の目的のために描かれたようです。江戸期の当院の境内を描いたものとしては、『江戸名所図会』に掲載のものがありますが、この度の地図は年代的には約百年先行するものです。現在の本堂（赤不動）の一世代前のお堂は寛保三年（一七四三）の建立であり、それ以前の境内の様子を示すものとして非常に貴重な資料といえます。（写真提供　筑波大図書館）



こらむ

▼オルニチンという物質がある。アミノ酸の一種で、抗疲労、代謝向上、肝臓の解毒促進等の働きがある。今年は、オルニチン入りの飲み物も売り出される等なかなか流行っているらしい▼オルニチンはしじみに多く含まれていて、「しじみが肝臓によい」というのはこの物質の働きによる。しかし、最近のオルニチンの普及は、植物から取り出した糖分を微生物を使って発酵させてオルニチンに変えるバイオ技術のおかげである。しじみが使われているわけでない▼国内の規制緩和でオルニチンを健康食品として売ってよいことになり、Ｋ社はバイオ技術を前面にした商品を出した。しかし、売上は数年間さっぱり伸びなかった。オルニチンの働きに自信をもっていた開発者には意外な事態だったらしい▼そんなとき一人のアイデアにより、商品の中身は変えずに「しじみパワーのオルニチン」というコピーをつけたことで、売上は毎年倍倍で伸びた。（『週刊ポスト』）▼オルニチンというカタカナには反応しない人々もしじみが肝臓によいことはよく知っていた。それにしても大勢の心に訴える言葉を見つけだすのは大変だ。（R）

団体参詣スナップ集

桜模様の長谷寺山内

長谷寺本堂舞台からの眺め

高野山　根本大塔

唐招提寺金堂

唐招提寺でくつろぐ

<u>おわりに</u>

この度の団体参詣にご参加下さった檀信徒の皆様方に厚く御礼申し上げます。

なお、非常に残念なことに、参加者の永瀬崇さんが去る４月２５日にお亡くなりになりました。

在りし日のお姿を偲び、衷心よりご冥福をお祈りします。　合掌